

第4章 基本的なアダプタの 使い方



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

4.1 データマッパ



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1 データマッパー

- Magic xpi の代表的なコンポーネントであるデータマッパーは、データを送り元から送り先へマッピング、連携することができます。
- 連携することのできる送り元/送り先として以下の種類があります。

	送り元	送り先
XML ※1	○	○
JSON ※1	○	○
データベース	SELECT	INSERT, UPDATE, DELETE, UPSERT ※2
フラットファイル(CSV, 固定長ファイル等)	○	○
XMLインタフェースを持つコンポーネント	○	○
変数	○	○
ODS	○	○
UDS	○	○
フロー呼び出し(Call Flow)	×	○
テンプレートファイル ※3	×	○

※1
XML、JSONを使用する
場合はスキーマファイルが必要

※2
UPSERTはMSSQLとOracle
でのみ使用可能。
データベーススキーマプロパティ
「UPSERT」を「Yes」に設定

※3
HTMLやテキストに
xpi独自のタグを埋め込んだ
テンプレートファイルを用意し、
タグ部分に動的に値を設定

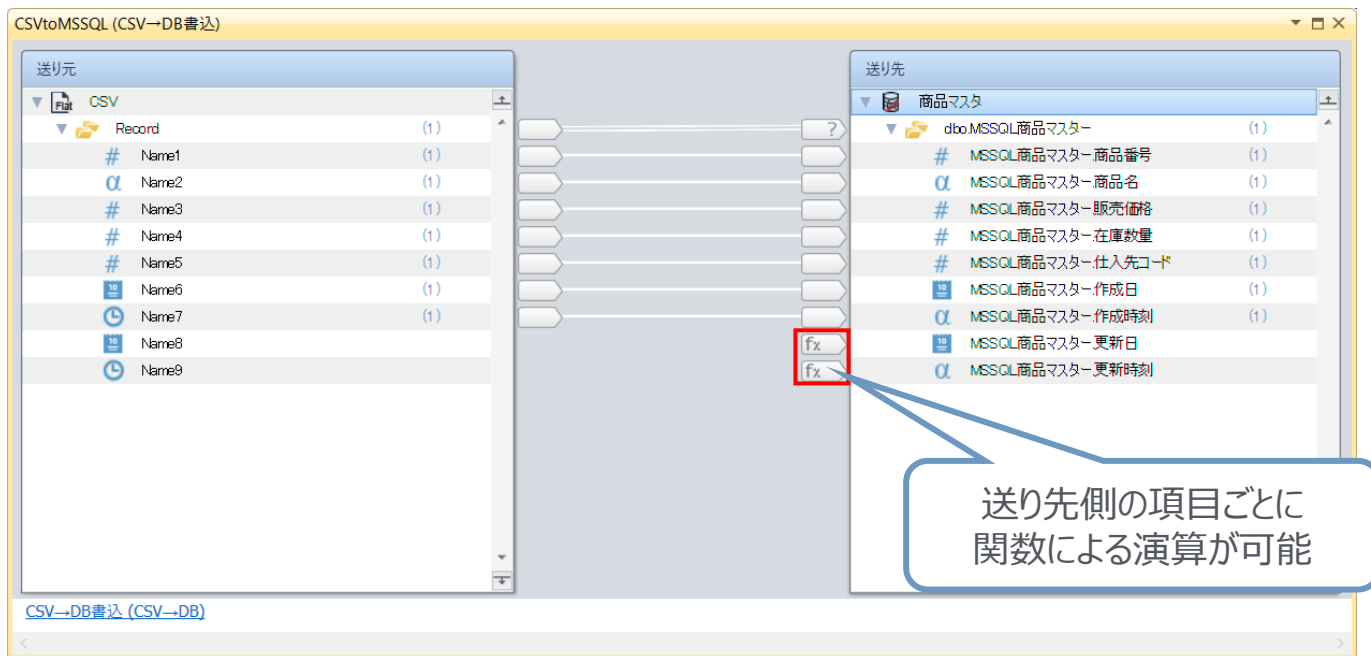


4.1 データマッパー

【データマッパーの設定例】

送り元: Flat File(CSV)

送り先: DataBase



4.2 ディレクトリ スキャナ

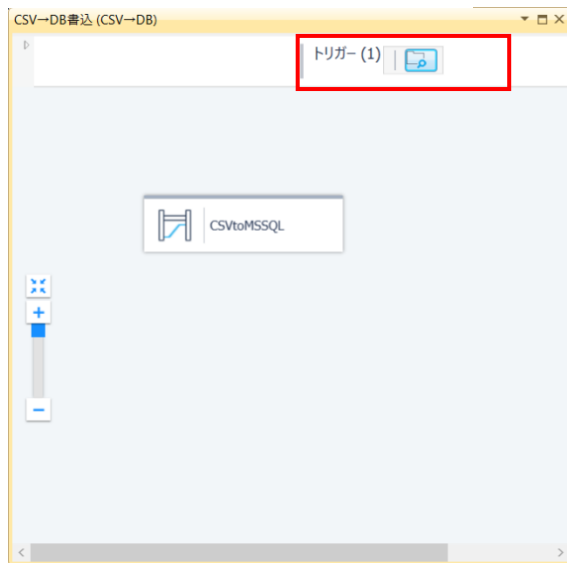


OUTPERFORM THE FUTURE™

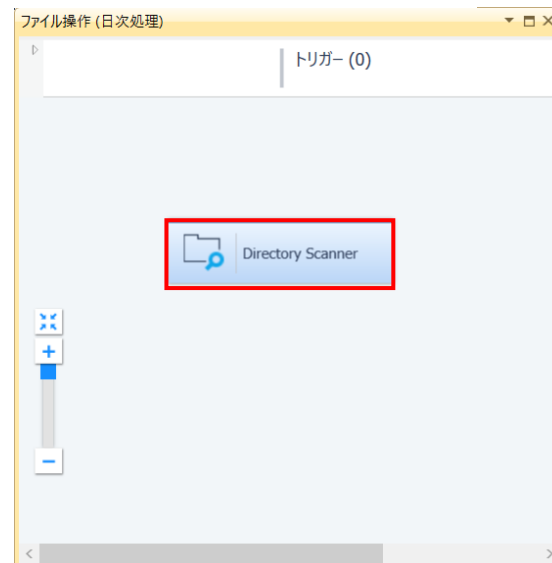
4.2 ディレクトリスキャナ

- ・ ディレクトリスキャナを使用すると、ディレクトリを監視・スキャンすることができます。
- ・ トリガーエリアに配置すると、ファイル出力をトリガーとしてフローを起動できます。
- ・ フローエリアに配置すると、ファイルの移動、削除、名前変更ができます。

トリガーエリアに配置



フローエリアに配置



4.3

CSVをDBに 取り込む

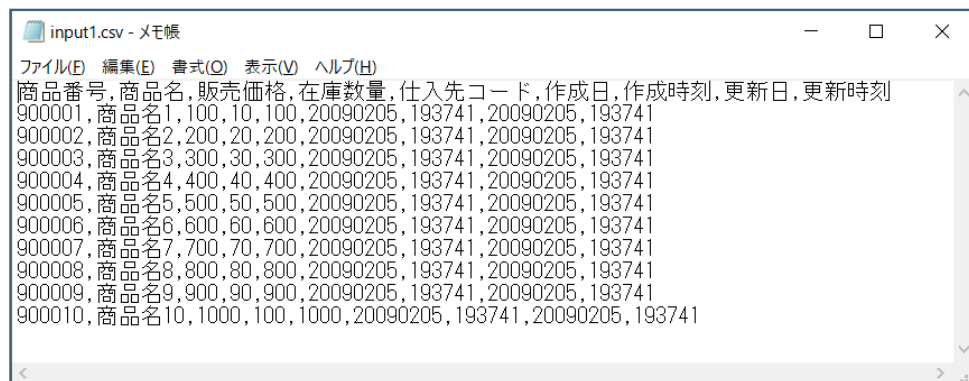


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVをDBに取り込む

【仕様】

- データマッパーを使用してCSVのデータをDB上の商品マスタに書き込みます。
- CSVおよびDB上の商品マスタのレイアウトは下記の通りです。



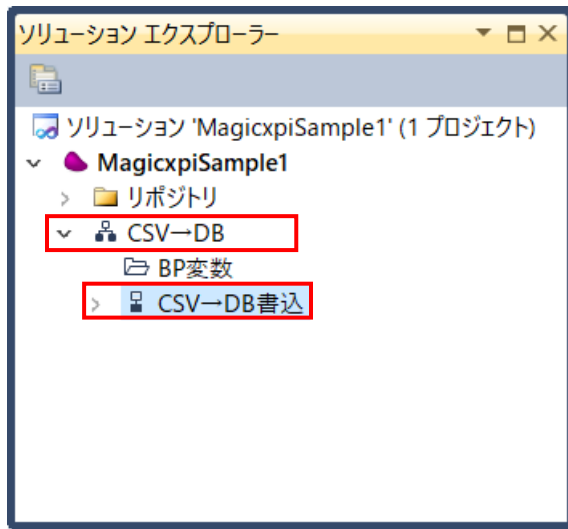
商品番号	商品名	販売価格	在庫数量	仕入先コード	作成日	作成時刻	更新日	更新時刻
900001	商品名1	100	10	100	20090205	193741	20090205	193741
900002	商品名2	200	20	200	20090205	193741	20090205	193741
900003	商品名3	300	30	300	20090205	193741	20090205	193741
900004	商品名4	400	40	400	20090205	193741	20090205	193741
900005	商品名5	500	50	500	20090205	193741	20090205	193741
900006	商品名6	600	60	600	20090205	193741	20090205	193741
900007	商品名7	700	70	700	20090205	193741	20090205	193741
900008	商品名8	800	80	800	20090205	193741	20090205	193741
900009	商品名9	900	90	900	20090205	193741	20090205	193741
900010	商品名10	1000	100	1000	20090205	193741	20090205	193741

列名	データ型
商品番号	float
商品名	char(255)
販売価格	numeric(17,5)
在庫数量	float
仕入先コード	float
作成日	datetime
作成時刻	char(6)
更新日	datetime
更新時刻	char(6)

4.3 CSVをDBに取り込む

【Magic xpi スタジオの起動】

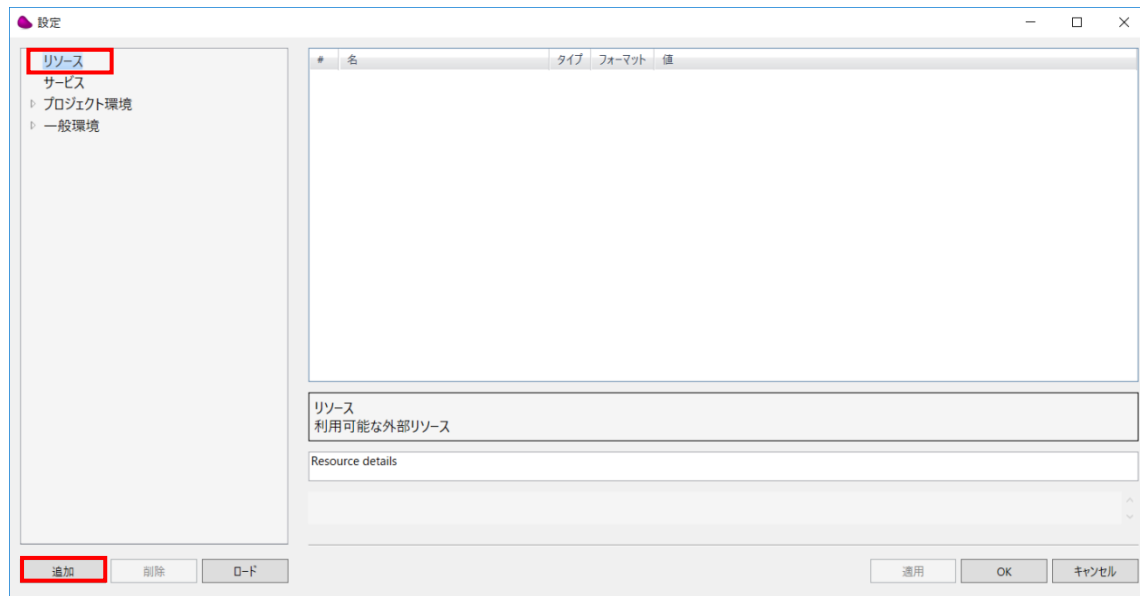
- ・ 「ファイル」メニューから「開く」を選択し「MagicxpiSample1.sln」を開きます。
- ・ ビジネスプロセスを右クリックし「CSV→DB」に名前変更します。
- ・ フローを右クリックし「CSV→DB書込」に名前変更します。



4.3 CSVをDBに取り込む

【MSSQLデータベースリソースの登録】

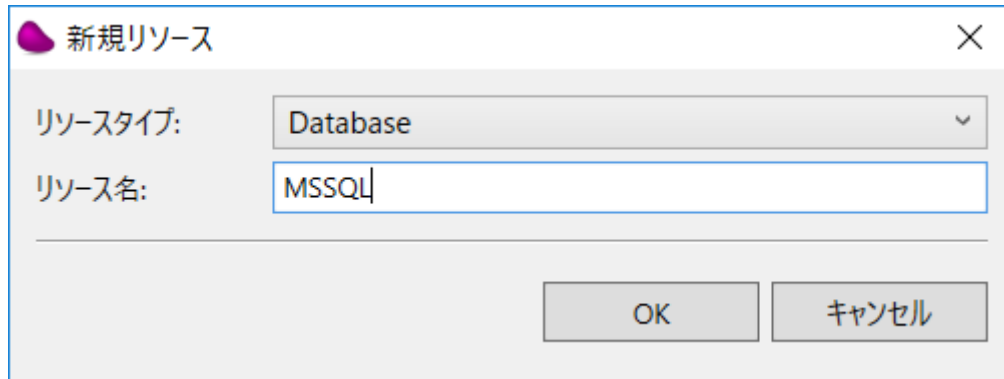
- ・ メニュー ＞ プロジェクト ＞ 設定をクリックします。
- ・ 左ペインで「リソース」が選択されている状態で「追加」ボタンを押します。



4.3 CSVをDBに取り込む

- ・ リソースタイプ「Database」を選択します。
- ・ リソース名「MSSQL」と入力し、「OK」ボタンを押します。

※禁則文字(@、&、% 等)は使用できません。



新規リソース

リソースタイプ: Database

リソース名: MSSQL

OK キャンセル

4.3 CSVをDBに取り込む

- ・ 右ペインにデータベース接続のための詳細情報を入力します。
- ・ 入力が終わったら画面下部の「検証」ボタンを押します。

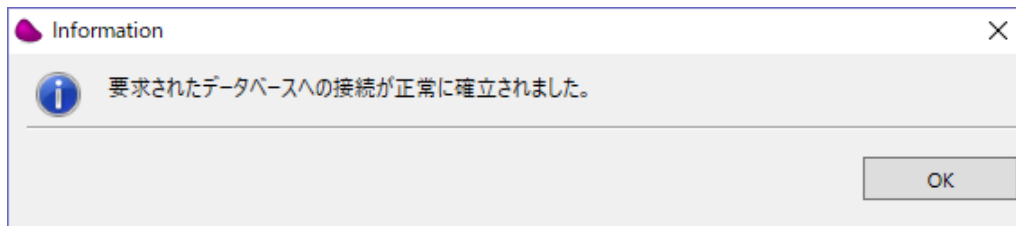
名	値
DBMS	Microsoft SQL Serverを選択します
データベース名	iBOLTTest
サーバ	.¥SQLEXPRESS
ユーザ	sa
パスワード	mgtr

※ご利用の環境にあわせて設定します。

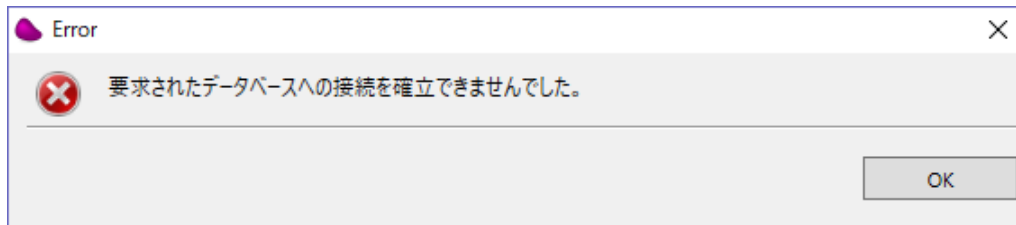
4.3 CSVをDBに取り込む

- データベースへ接続できた場合は、設定を保存します。
- データベースへ接続できなかった場合は、設定を修正してください。

接続OKの場合

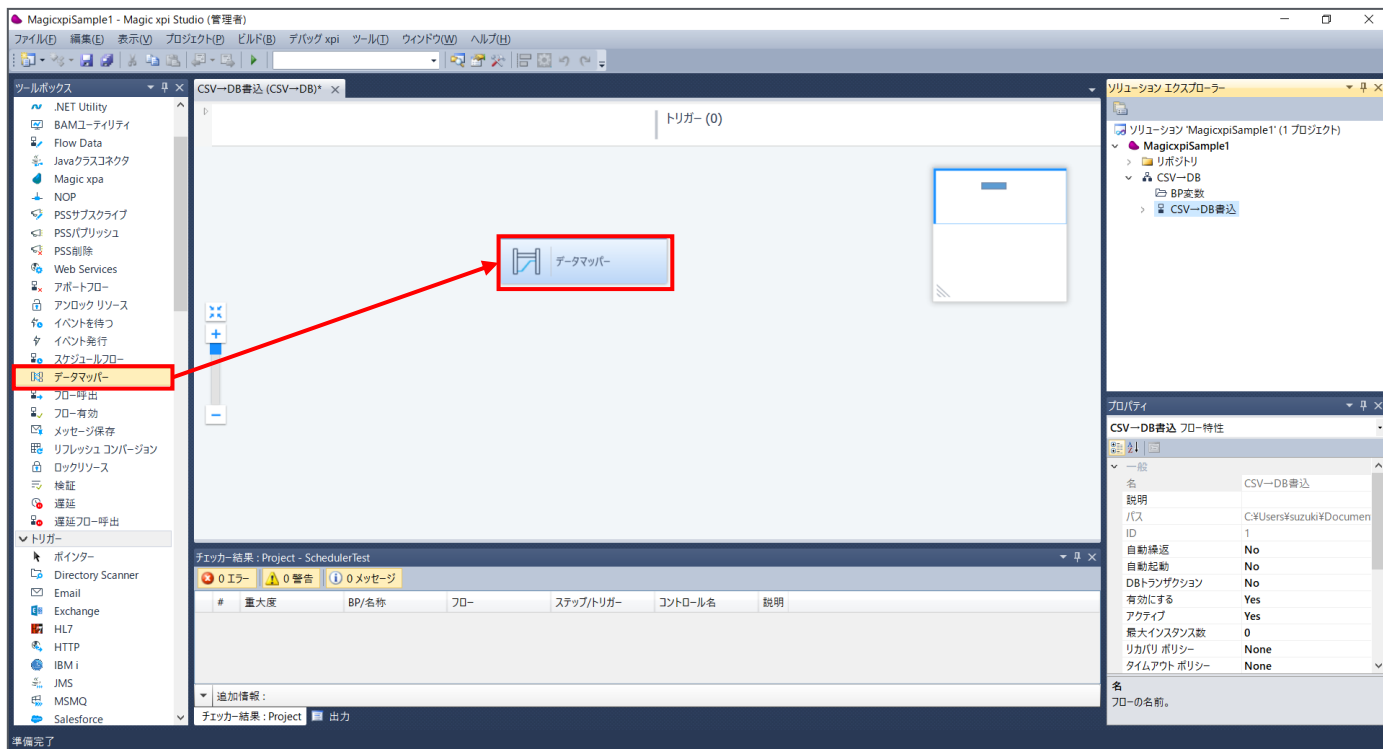


接続NGの場合



4.3 CSVをDBに取り込む

- ツールボックスから「データマッパー」をフローエリアにDrag&Dropします。



4.3 CSVをDBに取り込む

- データマッパーを選択し、プロパティペインでステップ名を設定します。

The screenshot shows the Magic xpi Studio interface. On the left, the 'Toolbox' contains various components, with 'データマッパー' (Data Mapper) highlighted. A callout bubble points to the 'CSVtoMSSQL' component, containing the text 'データマッパーをダブルクリック (次頁)' (Double-click Data Mapper (next page)). The main workspace displays the 'CSVtoMSSQL' step configuration. The 'General' tab is active, showing the 'ステップ名' (Step Name) as 'CSVtoMSSQL'. The 'Properties' section shows the following details:

Property	Value
ステップID	1
コンポーネントID	11
コンポーネントタイプ	データマッパー
条件	
処理モード	リニア
完了を待つ	No
アドバンスド	
セーブポイント	No
コールバックフロー	No
マッパー	

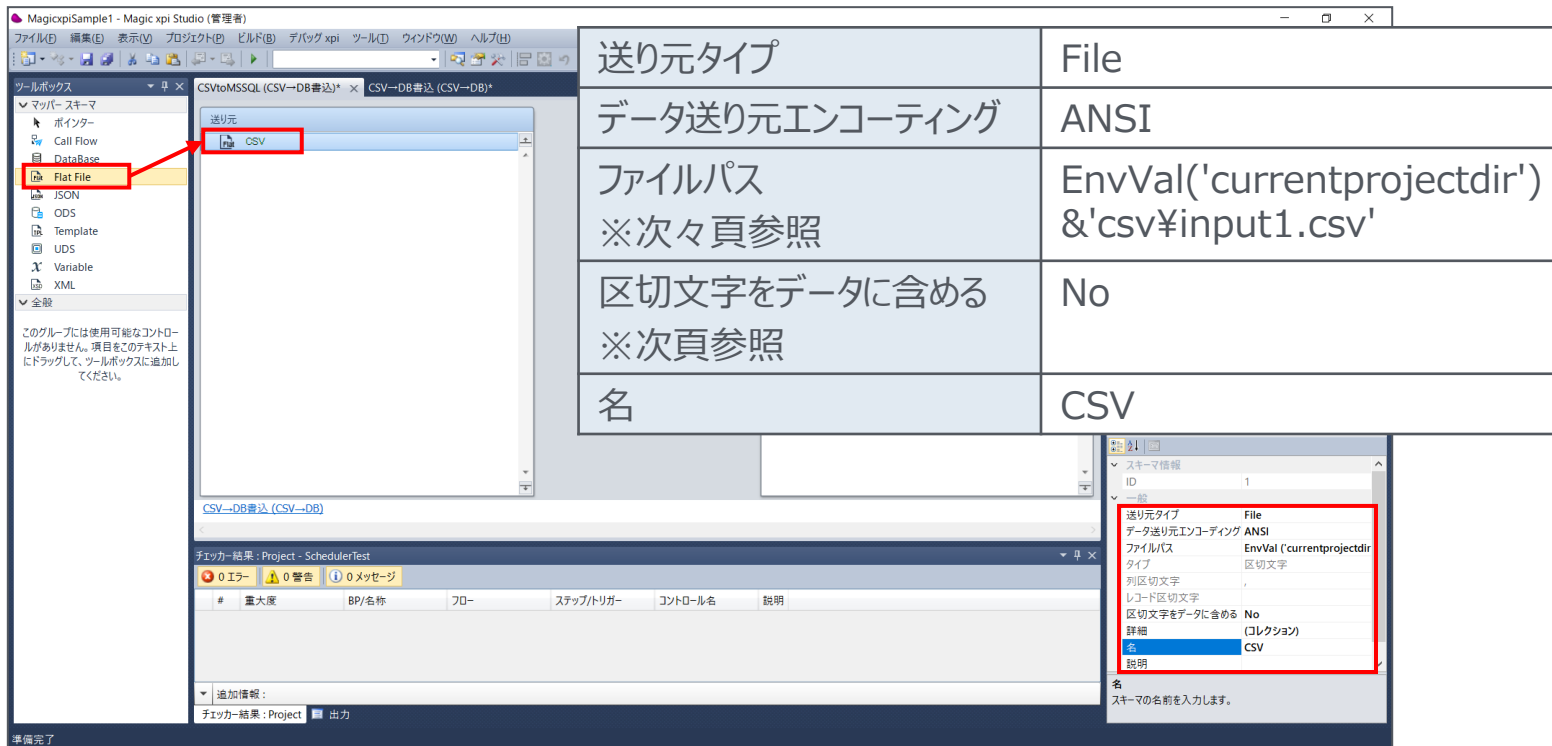
At the bottom, the 'Checker Results' section shows a table with columns: #, 重大度 (Severity), BP/名称 (BP/Name), フロー (Flow), ステップ/トリガー (Step/Trigger), コントロール名 (Control Name), and 説明 (Description). The table is currently empty.



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVをDBに取り込む

- マッパ画面が表示されます。
- 送り元にFlat FileをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。



送り元タイプ	File
データ送り元エンコーディング	ANSI
ファイルパス ※次々頁参照	EnvVal('currentprojectdir') &'csv¥input1.csv'
区切文字をデータに含める ※次頁参照	No
名	CSV

準備完了

4.3 CSVをDBに取り込む

【区切文字をデータに含める】

- 区切文字(CSVの場合はカンマ)をデータに含める場合、その文字が区切文字なのか、それともデータの一部なのかを識別するために、データをダブルクォーテーションで囲う必要があります。

例)

Tokyo, Ohta,03-1111-2222 ← 3つのデータとして識別される

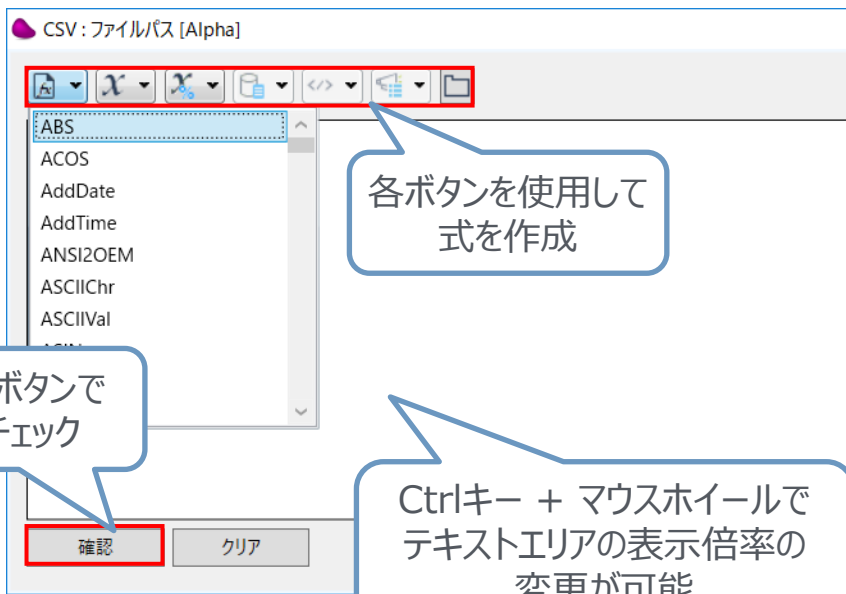
"Tokyo, Ohta","03-1111-2222" ← 2つのデータとして識別される

- 送り元のデータがダブルクォーテーションで囲われている場合、送り元のプロパティ「区切文字をデータに含める」を「Yes」に設定します。
- 送り先のデータをダブルクォーテーションをつけて出力したい場合、送り先のプロパティ「区切文字をデータに含める」を「Yes」に設定します。

4.3 CSVをDBに取り込む

【式アシスター】








- ・ ファイルパス右側の[⋯]ボタンをクリックすると「式アシスター」画面が表示されます。
- ・ 各ボタンによる入力補助機能を使用して式を作成し、文法チェックを行うことができます。



各ボタンを使用して式を作成

「確認」ボタンで文法チェック

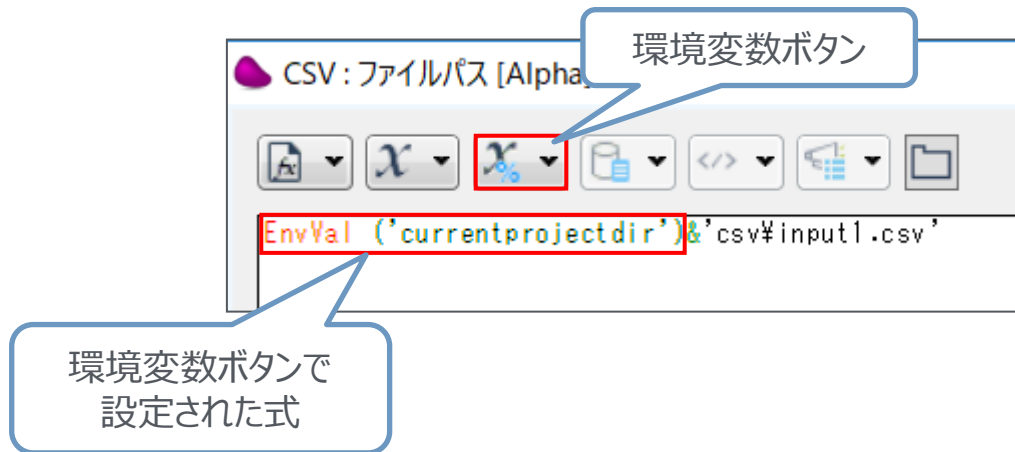
Ctrlキー + マウスホイールでテキストエリアの表示倍率の変更が可能

	関数ボタン 使用できる関数の一覧表示
	変数ボタン 使用できる変数の一覧表示
	環境変数ボタン 使用できる環境変数の一覧表示
	ODSボタン 使用できるODSの一覧表示
	ソースノードボタン 使用できる送り元ノードの一覧表示
	PSSトピックボタン 使用できるPSSトピックの一覧表示
	ファイル選択ダイアログ ファイル選択ダイアログの表示

4.3 CSVをDBに取り込む

【式アシスターの環境変数ボタン】

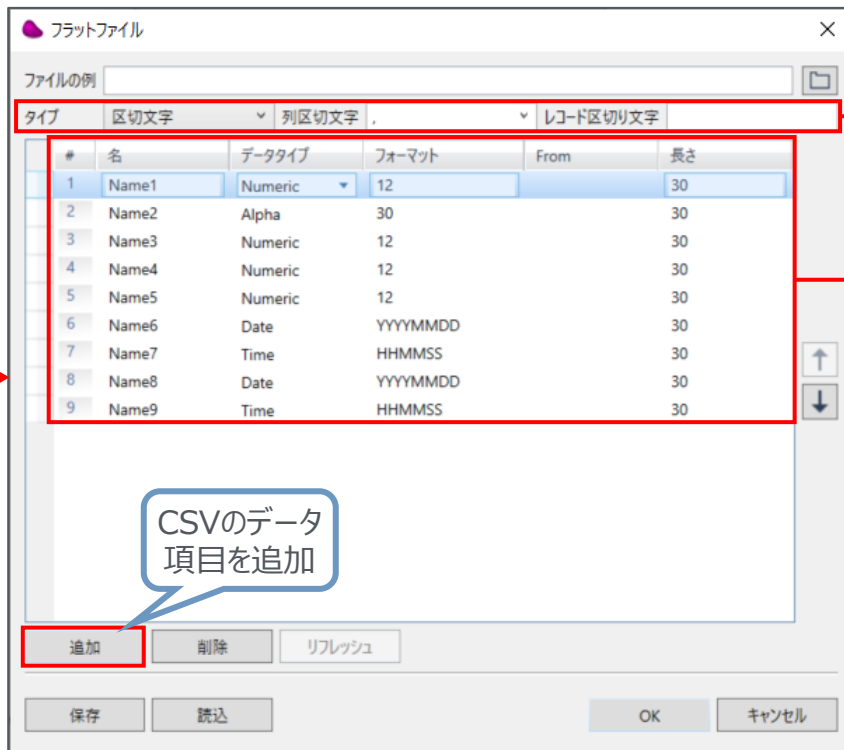
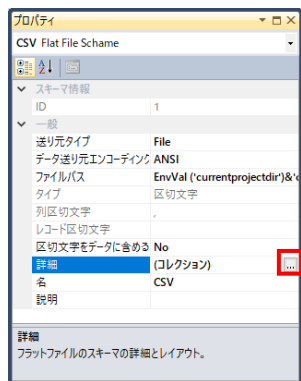
- ・ 式アシスター画面の環境変数ボタンを押し「currentprojectdir」をダブルクリックします。
- ・ 環境変数の値を取得するEnvVal関数を使用した式が設定されます。
- ・ 環境変数「currentprojectdir」の値は、現在のプロジェクトフォルダのパスです。



4.3 CSVをDBに取り込む

【フラットファイルの詳細設定】

- 詳細の右側の[...]ボタンをクリックし、フラットファイルの詳細設定画面を表示します。



タイプ	区切文字	可変長
	ポジション	固定長
列区切文字	,	カンマ区切り
	SPACE	スペース区切り
	TAB	タブ区切り

名	CSVのデータ項目名
データタイプ	データの型
フォーマット	書式 (桁数)



4.3 CSVをDBに取り込む

- 送り先にDataBaseをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。

データベース定義

データベース定義	MSSQL
名	商品マスタ

プロパティ

商品マスタ Database Schema

プロパティ	値
スキーマ情報	2
ID	
ファイナード	
SQL文	
動的SQL文	No
データベース定義	MSSQL
DB切断	No
エラー処理フロー	
名	商品マスタ
説明	

名
スキーマの名前を入力します。

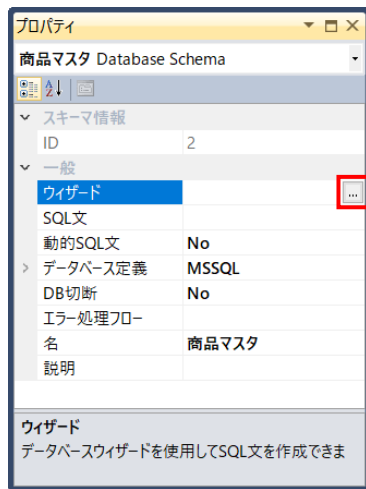


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVをDBに取り込む

【データベースウィザード】

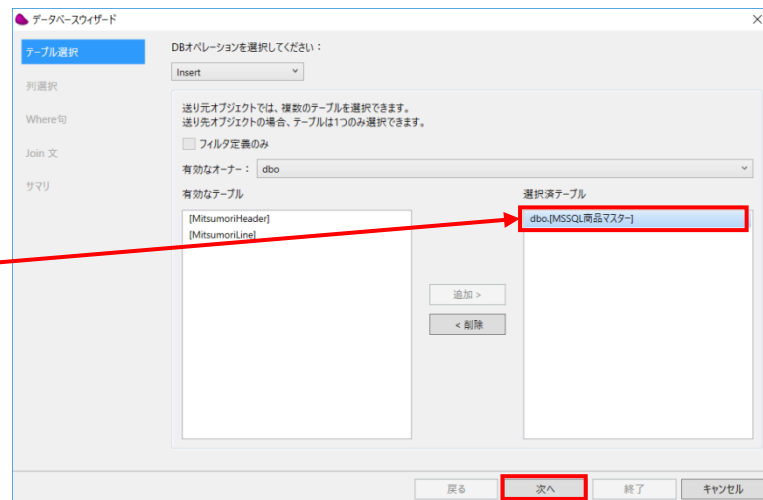
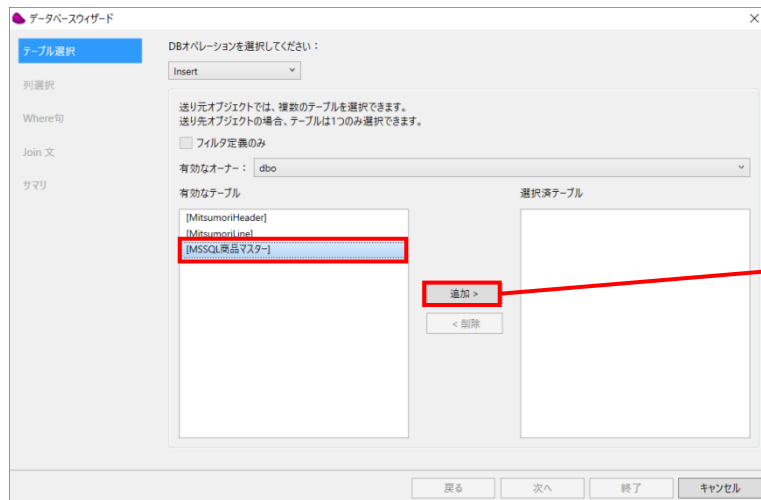
- ウィザードの右側の[...]ボタンをクリックし、データベースウィザード画面を開きます。



4.3 CSVをDBに取り込む

【テーブルの選択】

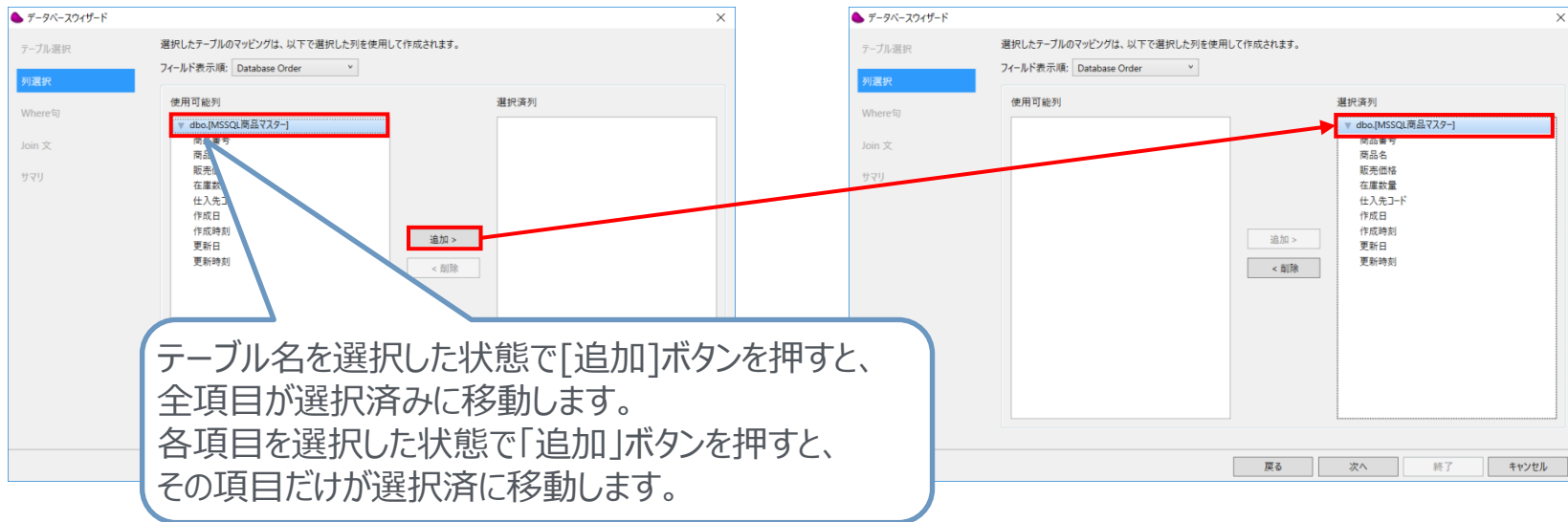
- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。



4.3 CSVをDBに取り込む

【列の選択】

- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。



4.3 CSVをDBに取り込む

【SQL文の自動生成】

- 「終了」ボタンを押し、送り先の設定を完了します。

データベースウィザード

テーブル選択
列選択
Where句
Join文
サマリ

データベースウィザードで作成されたSQL文。
SQL文を変更し、ウィザードの結果を上書きすることができます。

☒ 変換

SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].販売価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)

変換済SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].販売価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].作成日,[MSSQL商品マスター].作成時刻,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)

戻る 次へ 終了 キャンセル

「変換」にチェックをつけると、SQL文中の環境変数が、実際の値に置き換えられて「変換済SQL文」として表示されます。

例) WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = '%product_name%'
→ WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = 'デスクトップPC'

4.3 CSVをDBに取り込む

【マッピング】

- マッパ画面で下図のようにマッピングを行います。

送り元

Record	(1)
# Name1	(1)
α Name2	(1)
# Name3	(1)
# Name4	(1)
# Name5	(1)
α Name6	(1)
α Name7	(1)
α Name8	(1)
α Name9	(1)

送り先

dbo.MSSQL商品マスター	(1)
# MSSQL商品マスター-商品番号	(1)
α MSSQL商品マスター-商品名	(1)
# MSSQL商品マスター-販売価格	(1)
# MSSQL商品マスター-在庫数量	(1)
# MSSQL商品マスター-仕入先コード	(1)
α MSSQL商品マスター-作成日	(1)
α MSSQL商品マスター-作成時刻	(1)
α MSSQL商品マスター-更新日	(1)
α MSSQL商品マスター-更新時刻	(1)

接続の仕方は次頁

送り元や送り先を右クリックし、「全展開」をクリックすると項目が展開されます。

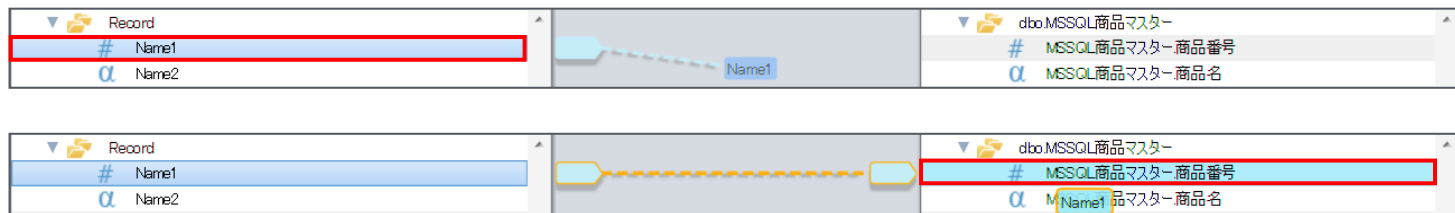
CSVtoMSSQL (CSV→DB書込)*

CSV→DB書込 (CSV→DB)

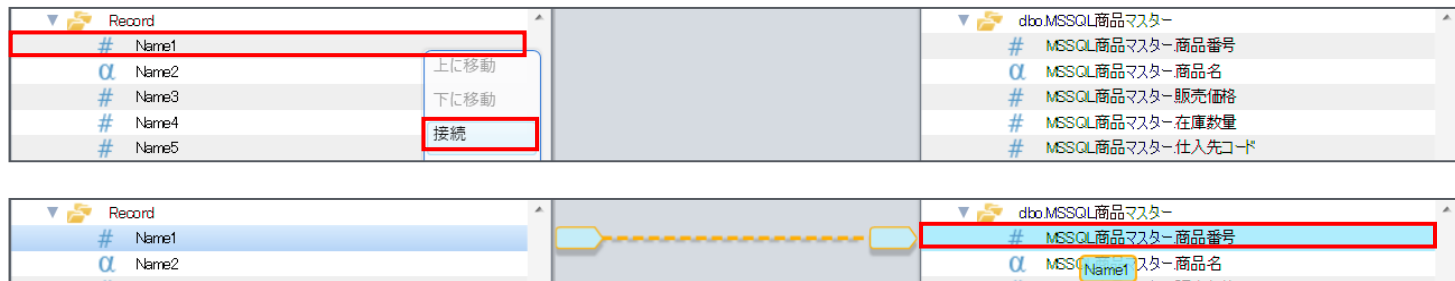
4.3 CSVをDBに取り込む

【接続の仕方】

- 送り元の項目をドラッグし、送り先の項目にドロップ



- 送り元の項目を右クリックし「接続」をクリック → 送り先の項目をクリック



4.3 CSVをDBに取り込む

【接続の削除の仕方】

- 送り元の項目を右クリックし「接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel has a red box around the 'Record' table with 'Name1' selected, and a red box around the '接続を削除' (Delete Connection) button. The bottom panel shows the result: 'Name1' is no longer in the 'Record' table, but 'Name2' remains. A blue callout bubble points to the 'Record' table in the bottom panel with the text 'その項目の接続のみ削除される' (Only the connection for that item is deleted).

Record	dbo.MSSQL商品マスター
# Name1	# MSSQL商品マスター 商品番号
α Name2	α MSSQL商品マスター 商品名

- 送り元の親項目を右クリックし「全ての接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel has a red box around the 'Record' table with the parent item selected, and a red box around the '全ての接続を削除' (Delete All Connections) button. The bottom panel shows the result: all items ('Name1', 'Name2', 'Name3') are removed from the 'Record' table. A blue callout bubble points to the 'Record' table in the bottom panel with the text '全ての接続が削除される' (All connections are deleted).

Record	dbo.MSSQL商品マスター
# Name1	# MSSQL商品マスター 商品番号
α Name2	α MSSQL商品マスター 商品名
# Name3	# MSSQL商品マスター 販売価格

4.3 CSVをDBに取り込む

【マッピングの詳細】

送り元（CSVファイル）	送り先（MSSQLの商品マスタ）
Record	dbo.MSSQL商品マスター
Name1	MSSQL商品マスター.商品番号
Name2	MSSQL商品マスター.商品名
Name3	MSSQL商品マスター.販売価格
Name4	MSSQL商品マスター.在庫数量
Name5	MSSQL商品マスター.仕入先コード
Name6	MSSQL商品マスター.作成日
Name7	MSSQL商品マスター.作成時刻
Name8	マッピングせず「計算値」に式を設定 ※次頁
Name9	マッピングせず「計算値」に式を設定 ※次頁

4.3 CSVをDBに取り込む

【式アシスターの関数ボタン】

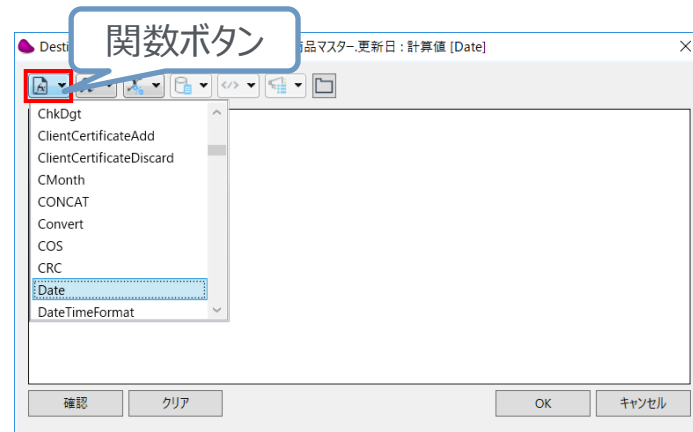
- 式アシスターの関数ボタンを押すと、ドロップダウンリストに関数が表示されます。
- 関数をダブルクリックすると、式の中に関数が挿入されます。

Date(): システム日付取得

DStr(日付, 書式): 日付型→文字型変換

Time(): システム時刻取得

TStr(時刻, 書式): 時刻型→文字型変換



送り元 (CSVファイル)	送り先 (MSSQLの商品マスタ)
Name8	マッピングせず「計算値」に式を設定 : Date()
Name9	マッピングせず「計算値」で式を設定 : TStr(Time(), 'HHMMSS')

4.3 CSVをDBに取り込む

【条件の指定】

- CSVの1行目が項目名の場合、そのレコードを読み飛ばす必要があります。
- このような場合は、レコードレベルのマッピングに条件を設定します。

「MSSQL商品マスター」のルートを選択しプロパティの「条件」を設定します。

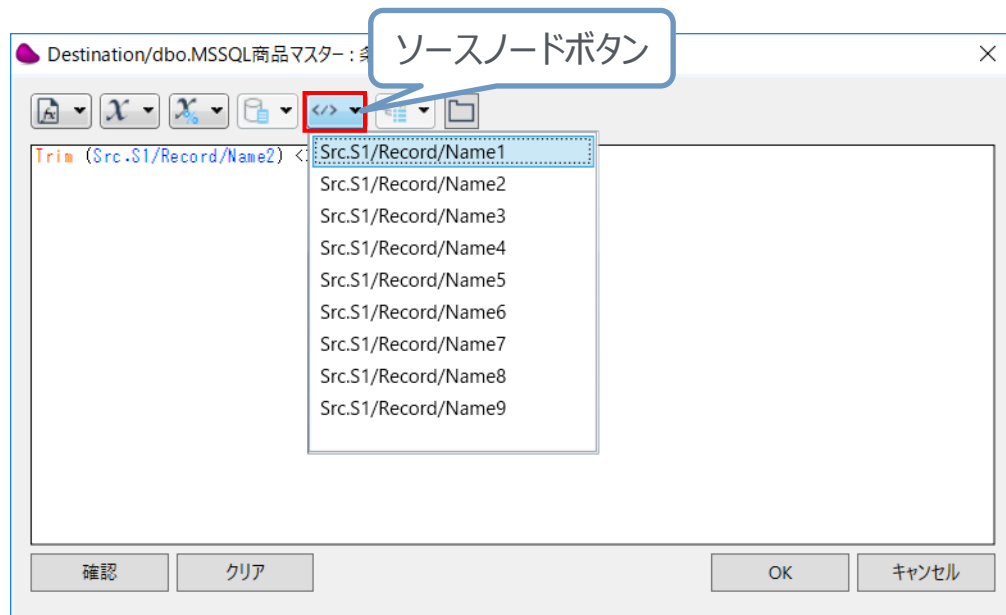
Trim (Src.S1/Record/Name2) <> '商品名'

商品名というデータは存在しないので、下記のような条件を設定します。**※次頁**
Trim (Src.S1/Record/Name2) <> '商品名'

4.3 CSVをDBに取り込む

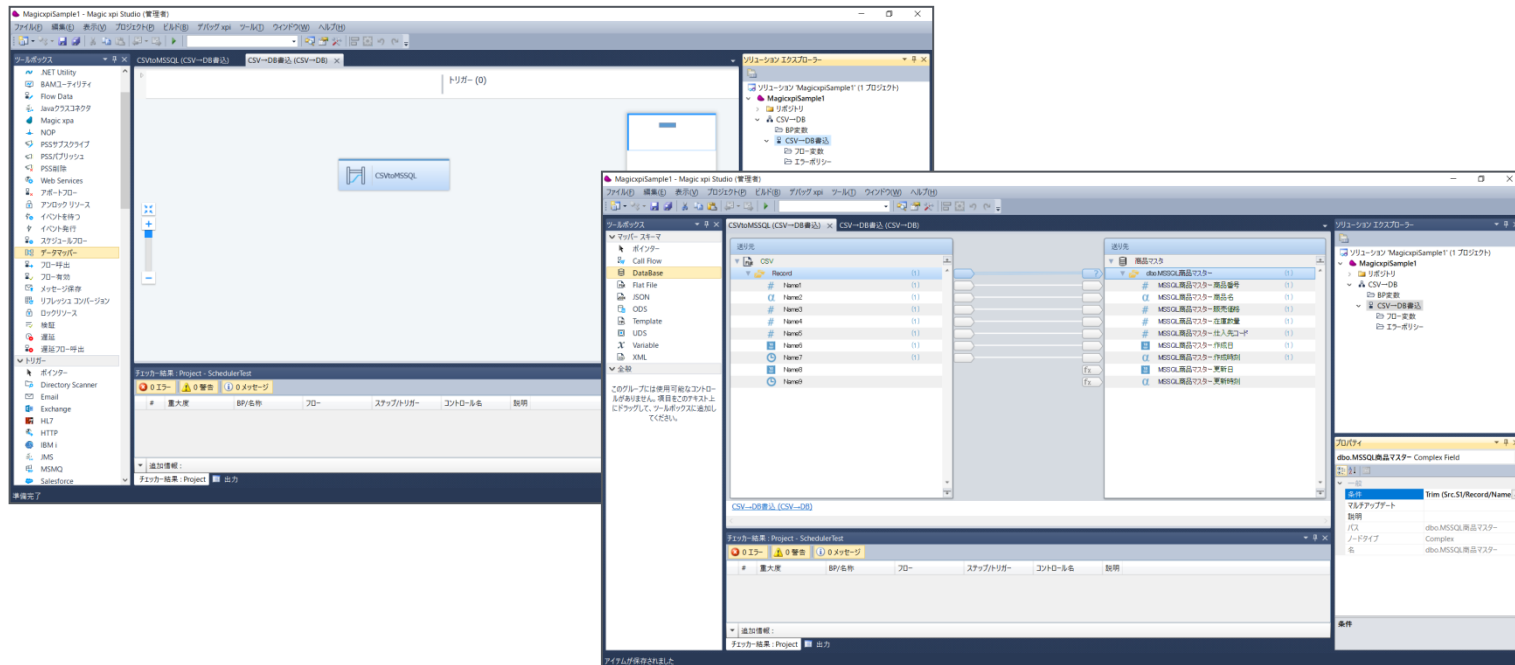
【式アシスターのソースノードボタン】

- ・ 式アシスターのソースノードボタンを押すと、ソースノードを表す文字列が表示されます。
- ・ ソースノードを表す文字列をダブルクリックすると、式に反映されます。



4.3 CSVをDBに取り込む

- これで完成です。



4.3 CSVをDBに取り込む

【データベースのデータ確認】

- データベースのデータを確認するにはManagement Studioを使用します。

データベース
iBOLTTest
テーブル
dbo.MSSQL商品マスター

MSSQL商品マスターに
データがないことを確認

右クリックし、
「上位1000行の選択」をクリック

ユーザ	sa
パスワード	mgrtr

4.3 CSVをDBに取り込む

【フローのデバッグ】

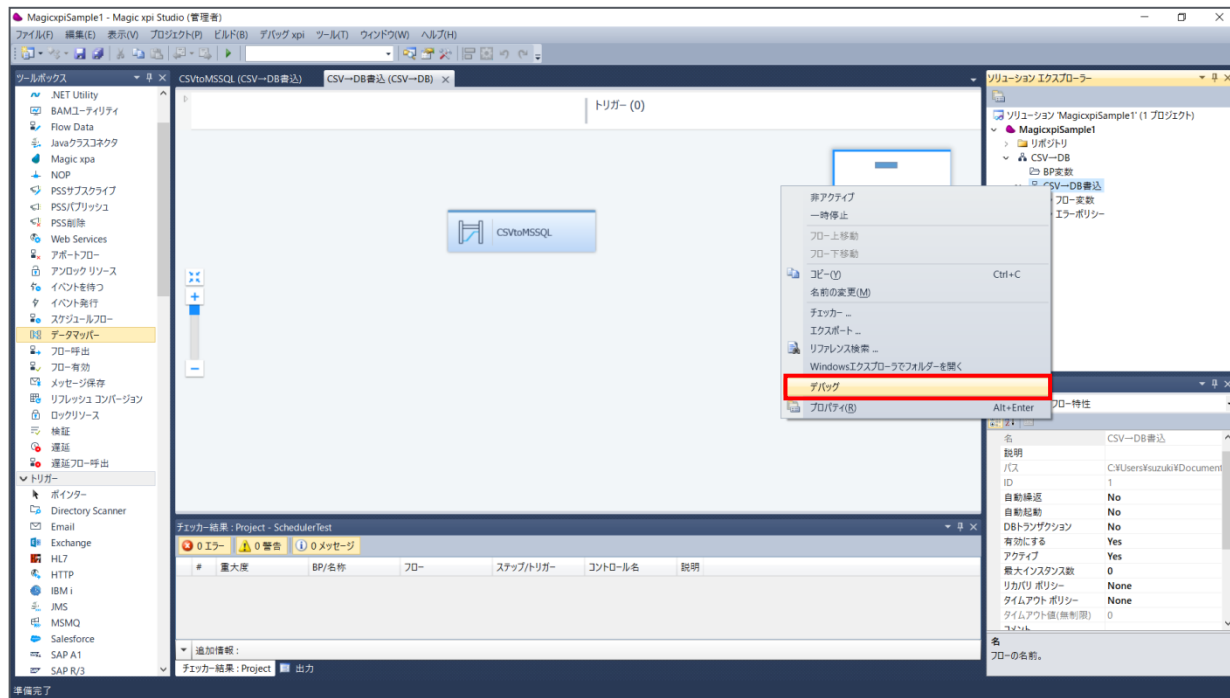
- ・ デバッグには2つの方法があります。

デバッグの方法	実施手順	備考
プロジェクトデバッグ	メニュー＞デバッグxpi＞デバッグ開始	トリガが設定されている場合や サブフローがある場合はこの方法でデバッグ
フローデバッグ	ソリューションエクスプローラで フローを右クリックし「デバッグ」	特定のフローのみをデバッグ トリガがなくても自動起動でデバッグできる

※いずれのデバッグ方法でも、停止手順(メニュー＞デバッグxpi＞デバッグ停止)は共通です。

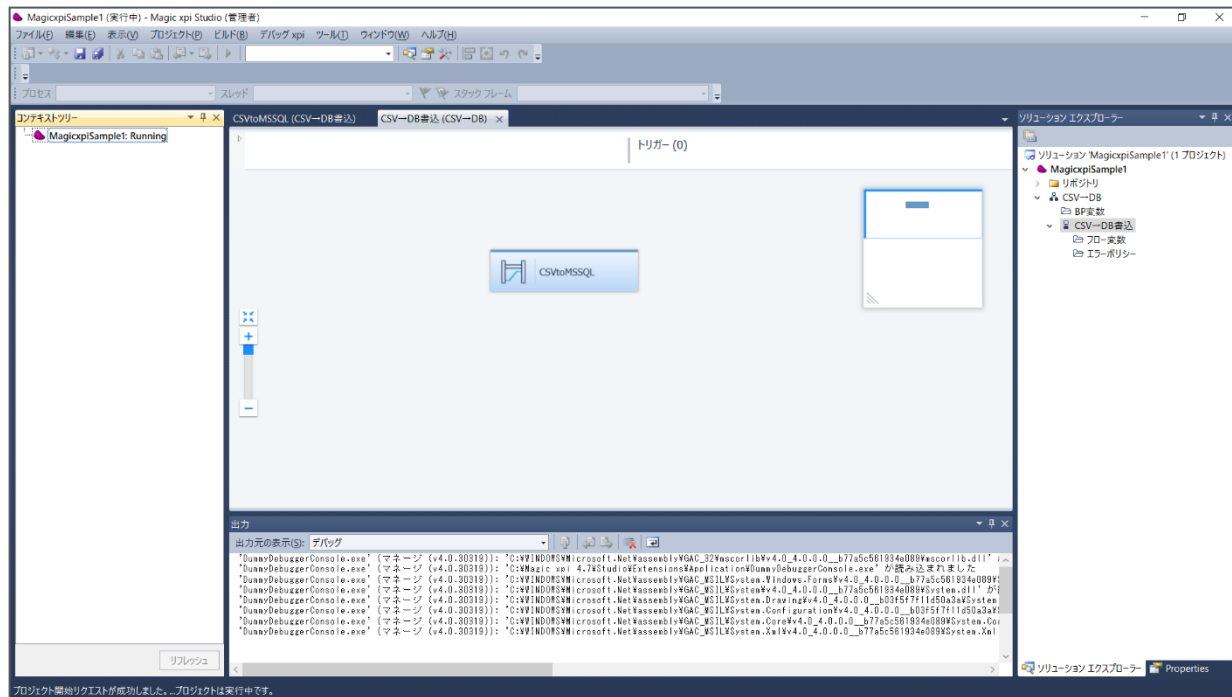
4.3 CSVをDBに取り込む

- ・ フローデバッグをしてみましょう。
- ・ 「CSV→DB書込」フローを右クリックし、「デバッグ」をクリックします。



4.3 CSVをDBに取り込む

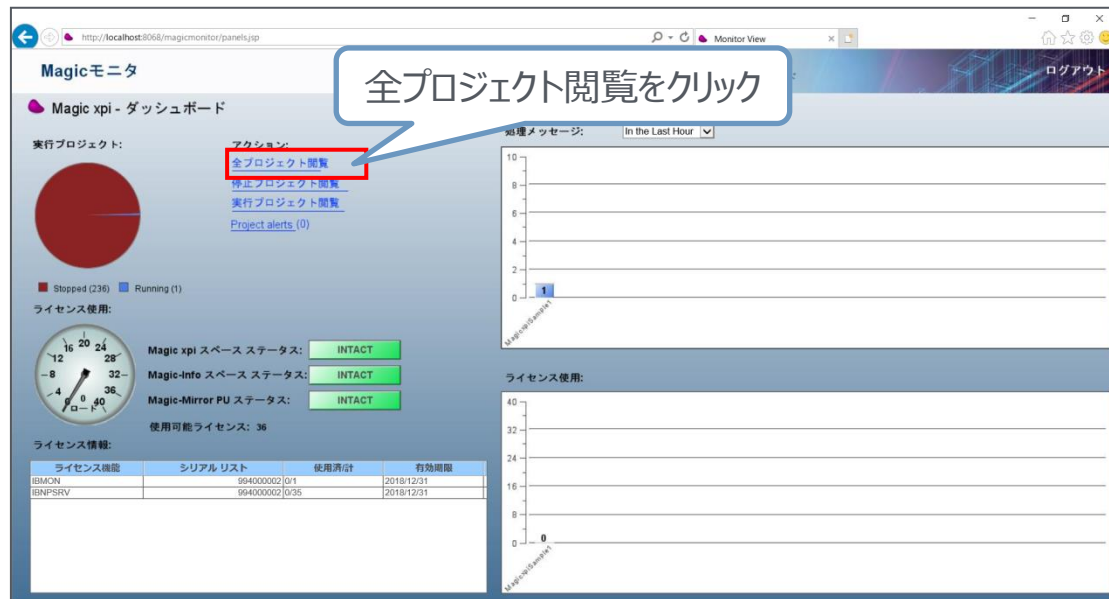
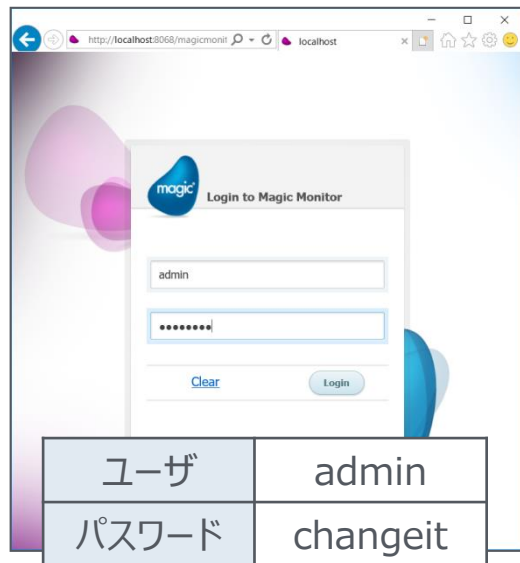
- デバッグの実行中は下記のような画面になります。



4.3 CSVをDBに取り込む

【Magic モニタの起動】

- デスクトップのショートカットからMagic モニタを起動します。



4.3 CSVをDBに取り込む

- 「アクティビティログ」タブでフローの実行状況を確認します。

アクティビティログをクリック

アクティビティログが表示されていることを確認します

日時	メッセージタイプ	メッセージ文字列	ステップ	FSID
8 13,2018 11:18:58.927	Flow completed	Execution Time: 00:00:00.941	CSVtoMSSQL	1
8 13,2018 11:18:58.836	Flow component completed	Execution Time: 00:00:00.767	CSVtoMSSQL	1
8 13,2018 11:18:58.069	Flow component started	Linear	CSVtoMSSQL	1
8 13,2018 11:18:57.986	Flow started	- Instance number 1, The server wa...		0
8 13,2018 11:18:57.054	Server started			0



4.3 CSVをDBに取り込む

【データの確認】

- DBテーブルにレコードが追加されたことを確認します。

Microsoft SQL Server Management Studio

SQLQuery6.sql - PS_OLTest (sa (59)) | SQLQuery5.sql - PS_OLTest (sa (56))

```
/****** SSMS からの SelectTopNRows コマンドのスクリプト *****/  
SELECT TOP 1000 [商品番号]  
    , [商品名]  
    , [販売価格]  
    , [在庫数量]  
    , [仕入先コード]  
    , [作成日]  
    , [作成時刻]  
    , [更新日]  
    , [更新時刻]  
FROM [iBOLTest].[dbo].[MSSQL商品マスター]
```

結果

	商品番号	商品名	販売価格	在庫数量	仕入先コード	作成日	作成時刻	更新日	更新時刻
1	900001	商品名1	100.00000	10	100	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
2	900002	商品名2	200.00000	20	200	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
3	900003	商品名3	300.00000	30	300	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
4	900004	商品名4	400.00000	40	400	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
5	900005	商品名5	500.00000	50	500	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
6	900006	商品名6	600.00000	60	600	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
7	900007	商品名7	700.00000	70	700	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
8	900008	商品名8	800.00000	80	800	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
9	900009	商品名9	900.00000	90	900	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
10	900010	商品名10	1000.00000	100	1000	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920

クエリが正常に実行されました。

PS_HP_01MSQLEXPRESS (10.50... | sa (56) | iBOLTest | 00:00:00 | 10 行

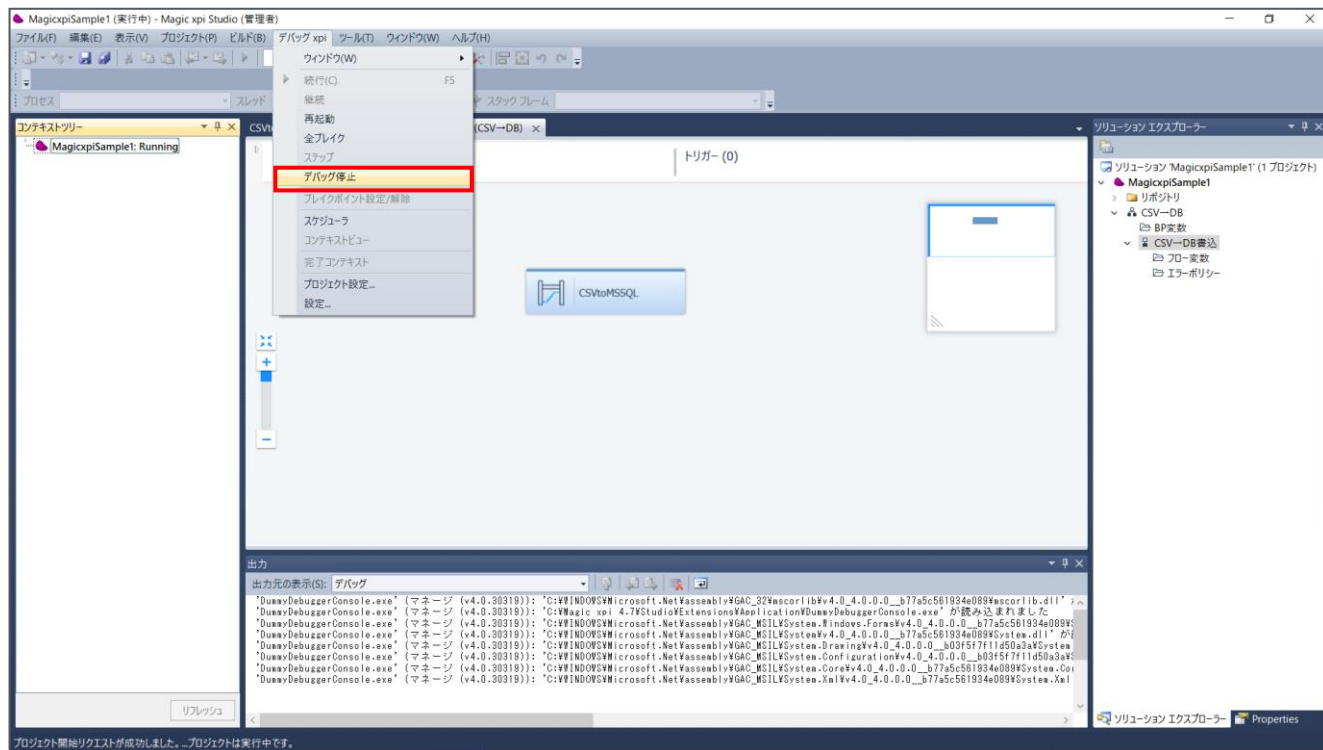
コマンド 11 行 45 列 39 文字 挿入

商品マスターテーブルにレコードが追加された

4.3 CSVをDBに取り込む

【デバッグの停止】

- デバッグを停止するにはメニュー>デバッグxpi>デバッグ停止をクリックします。



4.4

ファイルを 監視する



OUTPERFORM THE FUTURE™

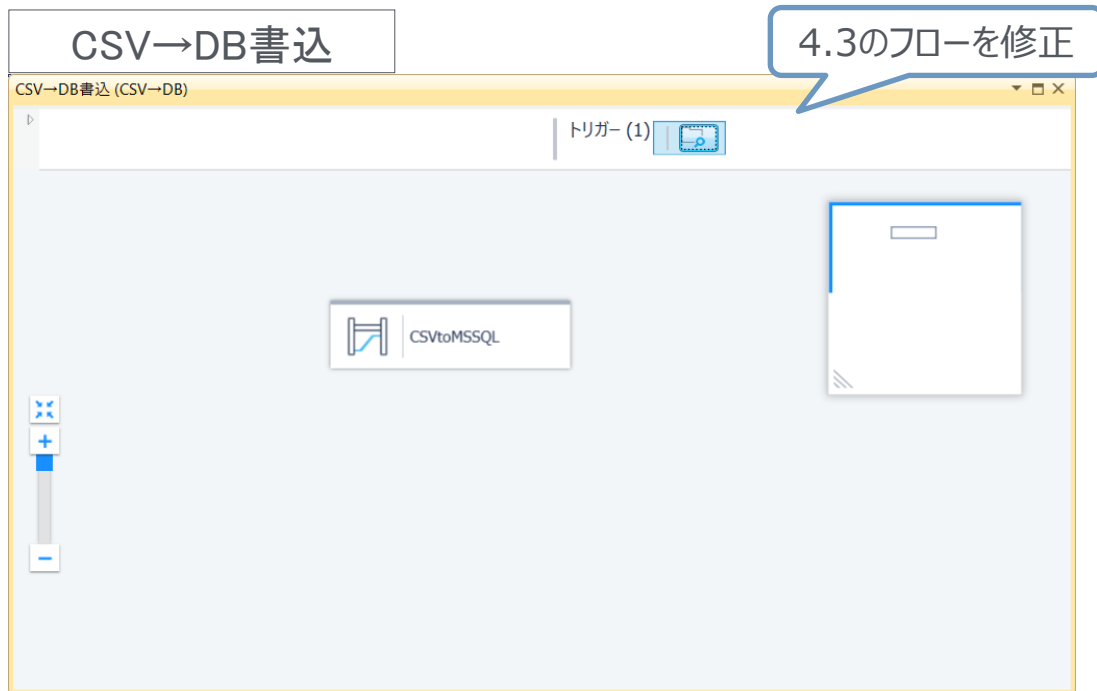
4.4 ファイルを監視する

【仕様】

- ・ フォルダにファイルが出力されるのを監視します。
- ・ ファイルが出力されたら、ファイルのデータを読み取ります。
- ・ ファイルは他のフォルダに移動します。
- ・ 読み取ったCSVファイルのデータをデータベースに格納します。

4.4 ファイルを監視する

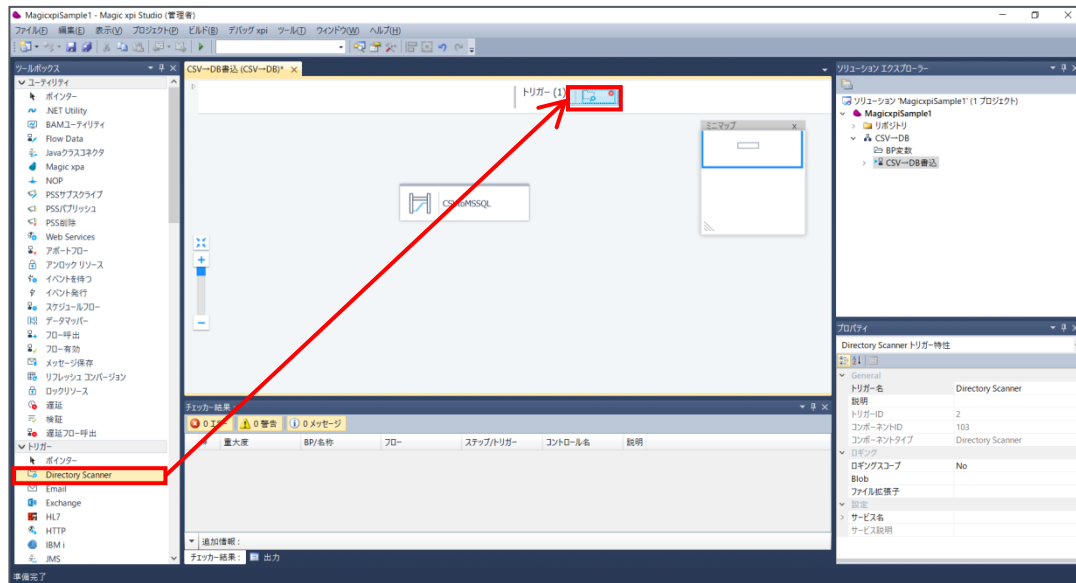
【フロー完成イメージ】



4.4 ファイルを監視する

【ディレクトリスキャナの設定】

- 「CSV→DB書込」フローをダブルクリックし、フローエディタを開きます。
- ツールボックスから「DirectoryScanner」をトリガーエリアにDrag&Dropします。



4.4 ファイルを監視する

- 「DirectoryScanner」をダブルクリックして設定画面を開き、下記のように設定します。

コンポーネント設定：ディレクトリスキャナ

#	送り元	ディレクトリ	サブディレクトリ	フィルタ	アクション	送り先ディレクトリ	マスク	ポーリング間隔(ミリ秒)	キーブアラップ間隔(分)
1	LAN	EnvVal('currer		*. *	Move	EnvVal('curre		3000	d

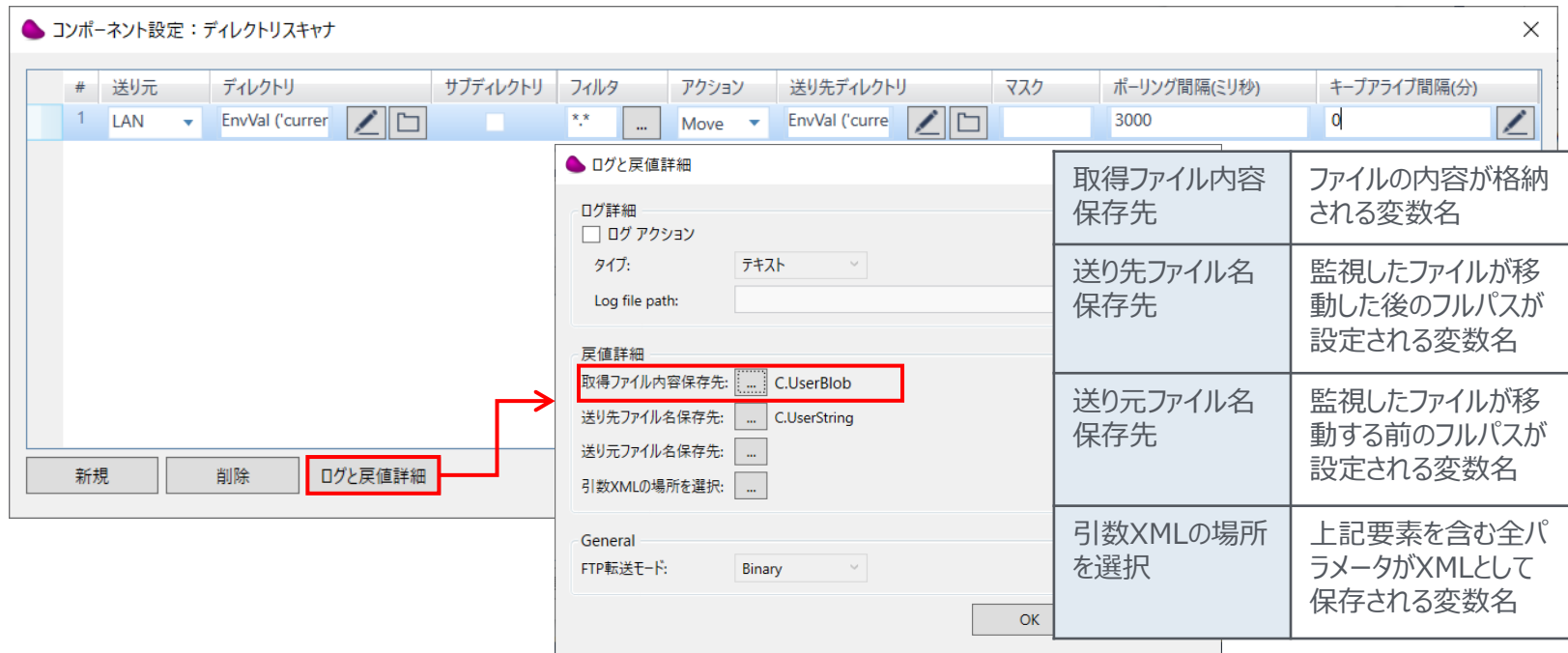
[新規]ボタンで
行を追加します

新規 削除 ログと戻値詳細

送り元	LAN
ディレクトリ	EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn'
フィルタ	*.*
アクション	Move
送り先ディレクトリ	EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn¥done'
ポーリング間隔(ミリ秒)	3000

4.4 ファイルを監視する

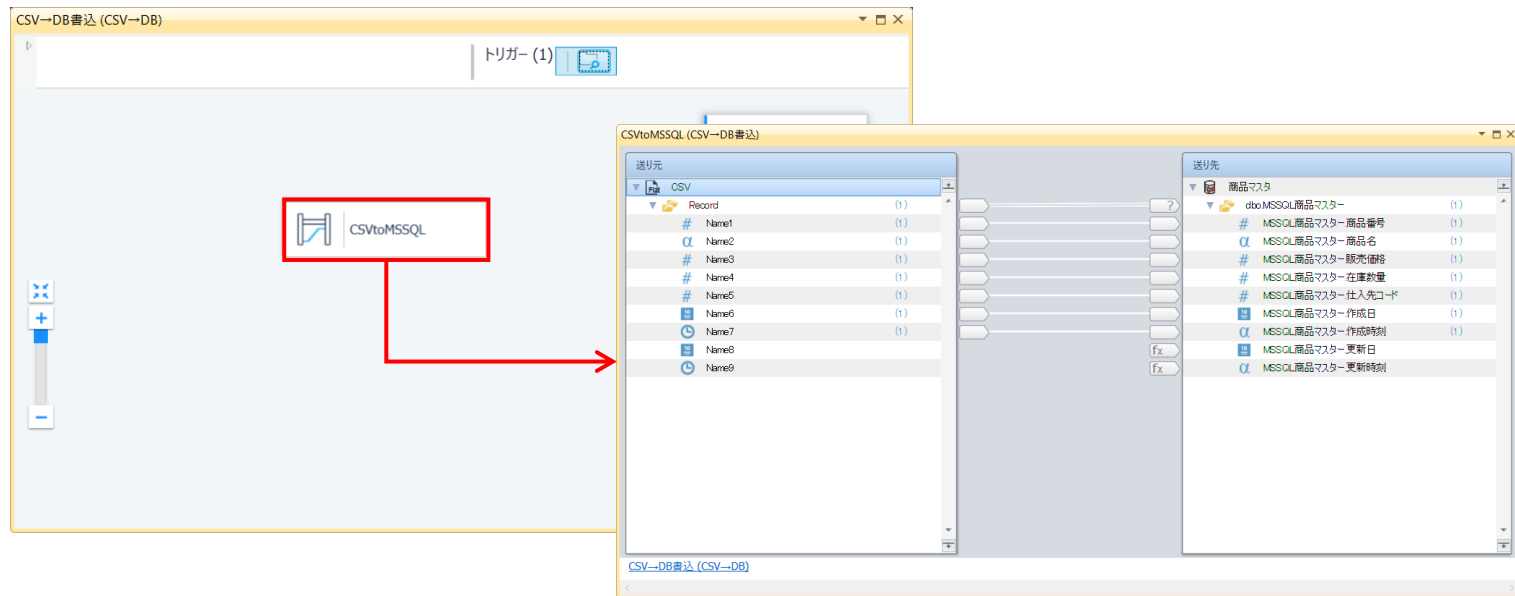
- 「ログと戻値詳細」ボタンをクリックして、ログと戻値詳細画面を表示します。
- 取得ファイル内容保存先に、変数「C.UserBlob」を設定します。



4.4 ファイルを監視する

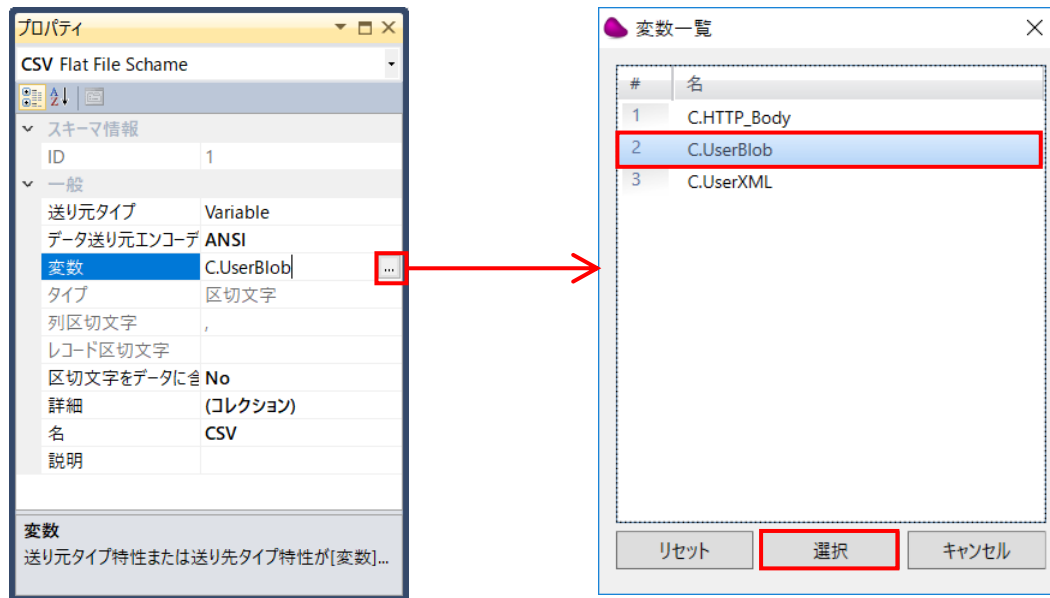
【フローの修正】

- データマッパをダブルクリックして、マッパ画面を表示します。



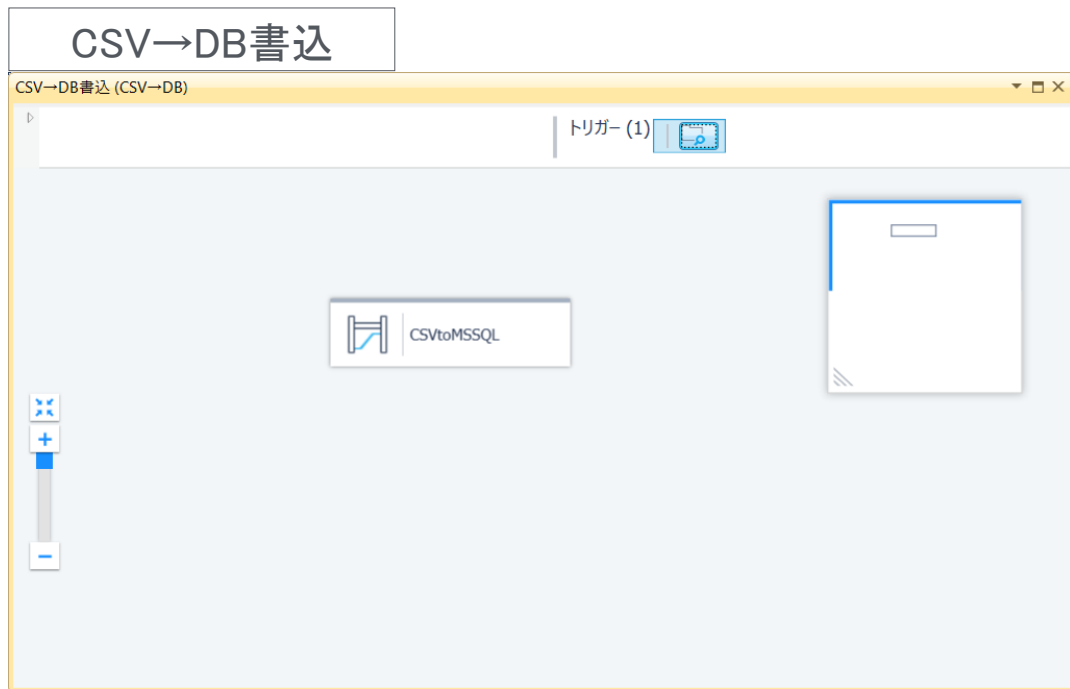
4.4 ファイルを監視する

- ・ 送り元のプロパティにて、送り元タイプをFileからVariableに変更します。
- ・ 変数欄の[...]ボタンを押し、変数一覧から「C.UserBlob」を選択します。



4.4 ファイルを監視する

- ・ 以上でフローの作成は終了です。



4.5

プロジェクトビルド
→ Magic モニタ
で実行



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

- ・ プロジェクトをビルドしてMagicモニタから実行し、「CSV→DB書込」フローの動作を確認しましょう。

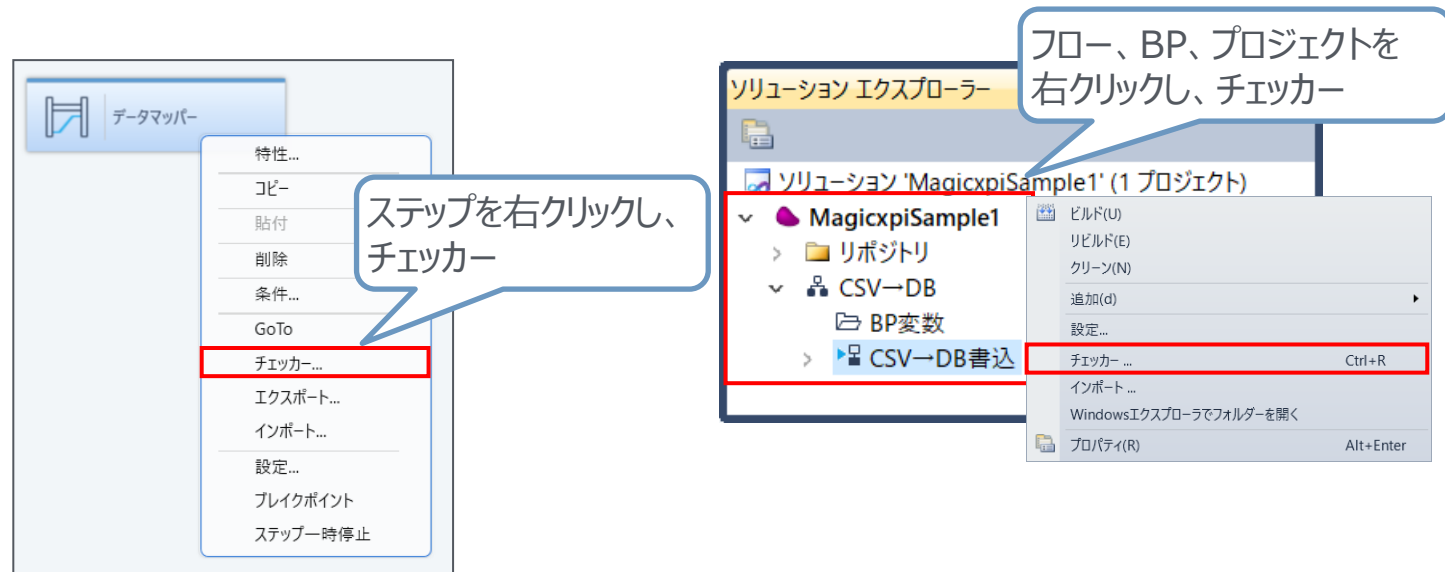


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー】

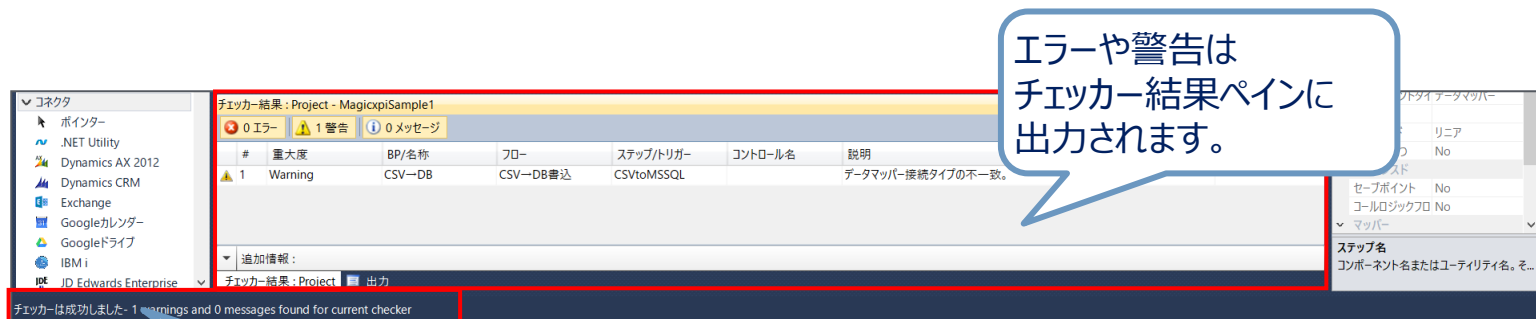
- ・ ビルドを行う前に、チェッカーを使用して文法上のエラーがないか確認します。
- ・ チェッカーは、ステップ、フロー、BP、プロジェクトレベルで実行できます。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー結果の確認】

- ・ チェッカーの結果はチェッカー結果ペイン、ステータスバーで確認します。
- ・ エラーや警告の行をダブルクリックすると、該当箇所に移ります。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルド】

- 作成したプロジェクトをMagic xpi サーバで実行するために、プロジェクトをビルドして実行形式にします。ビルドメニューには以下の3種類があります。

ソリューションのビルド	修正したプロジェクトの差分をビルドします。
ソリューションのリビルド	プロジェクト全体を再ビルドします。
ソリューションのクリーン	プロジェクトフォルダ下の下記のファイルとフォルダを削除します。 <プロジェクト名>.ibp Tempフォルダ _optフォルダ mappergenerateフォルダ

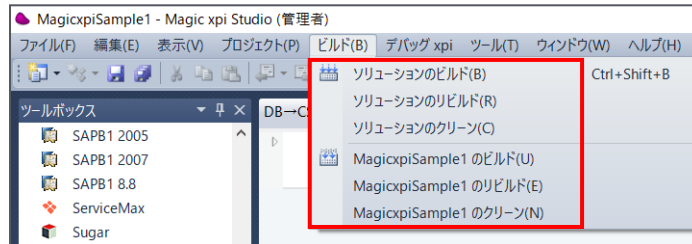
- ビルドとリビルドを実行すると、最初にチェッカーが実行され、エラーがある場合にはビルドは実行されません。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルドの実行】

- ・ メニュー ＞ ビルドからリビルドを実行します。
- ・ Magic xpi のプロジェクトは、ソリューション1つにつき、プロジェクトが1つなので、ソリューションのビルドもプロジェクトのビルドも違いはありません。



【ビルド結果の確認】

- ・ ビルドの結果はステータスバーで確認します。

ビルドが正常に終了した旨のメッセージが表示されます。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト実行】

- ビルドしたプロジェクトをMagic モニタで実行します。

①プロジェクト「MagicxpiSample1」を選択します。

プロジェクトが開始されると左端のアイコンが緑色になります。

※プロジェクトを選択すると背景色が濃い青色になります。背景色が薄い青色だと「開始」ボタンを押してもプロジェクトは起動しません。

②「開始」ボタンをクリックします。

クリックして背景色が濃い青色となったことを確認して下さい。

開始	プロジェクトリスト	ステータス	警報
	MagicxpiSample1	STOPPED	0

開始	プロジェクトリスト	ステータス	警報
	MagicxpiSample1	STOPPED	0

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データ削除】

- ・ ファイルをコピーする前に、商品マスターのデータを削除しておきます。

The screenshot shows the Microsoft SQL Server Management Studio interface. In the left-hand 'Server Enterprise Explorer' tree, the 'iBOLTTest' database is selected and highlighted with a red box. A callout bubble points to it with the text 'iBOLTTestを選択し、新しいクエリ' (Select iBOLTTest, new query). The central 'SQL Query Editor' window contains the SQL command 'truncate table MSSQL商品マスター'. A callout bubble points to this command with the text '下記SQLを入力し、[F5]ボタン押下 truncate table MSSQL商品マスター' (Enter the following SQL, press [F5] button truncate table MSSQL商品マスター). The bottom status bar shows the command was executed successfully: 'クエリが正常に実行されました。' (Query executed successfully). The output pane at the bottom shows '1行 33列 27文字 挿入' (1 row, 33 columns, 27 characters, insert).

Microsoft SQL Server Management Studio

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) クエリ(Q) デバッグ(D) ツール(T) ウィンドウ(W) コミュニティ(C) ヘルプ(H)

新しいクエリ(N) iBOLTTest

SQL Query2.sql - PS...OLTTest (sa (59))

```
truncate table MSSQL商品マスター
```

truncate table MSSQL商品マスター

メッセージ
コマンドは正常に完了しました。

クエリが正常に実行されました。 PS_HP_06#SQLEXPRESS (10.50 ... | sa (59) | iBOLTTest | 00:00:00 | 0行

出力

コマンド 1行 33列 27文字 挿入



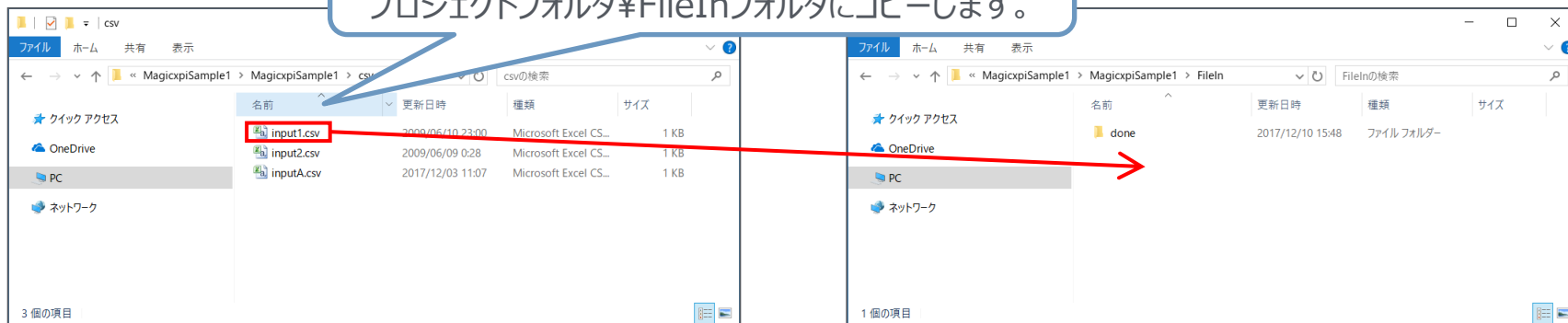
OUTPERFORM THE FUTURE™

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの配置】

- CSVファイルを監視フォルダにコピーします。

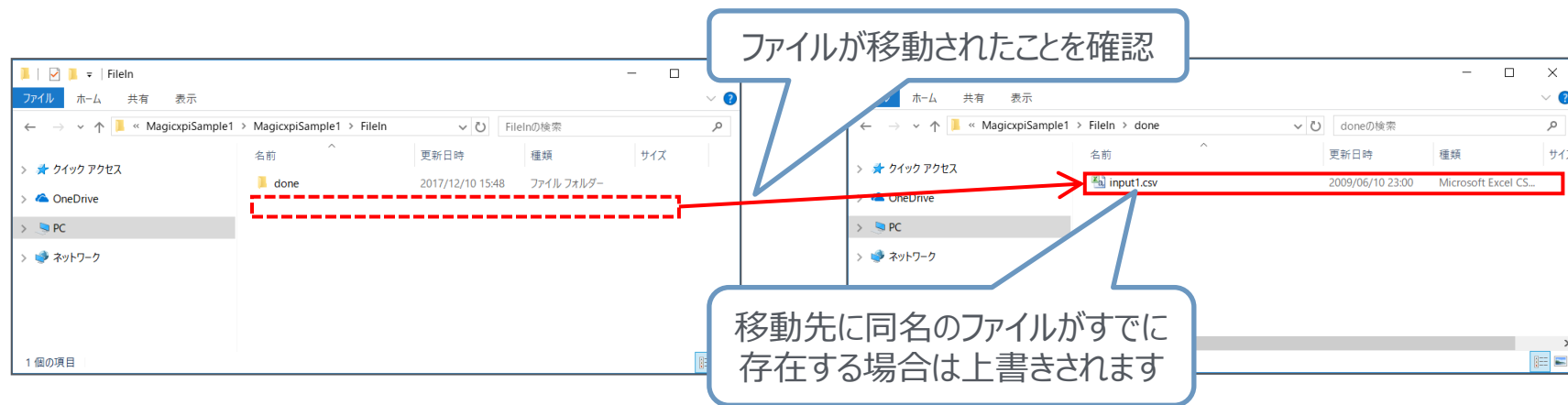
プロジェクトフォルダ¥csv¥input1.csvを
プロジェクトフォルダ¥FileInフォルダにコピーします。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの確認】

- ファイルが移動されたことを確認します。



4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタの確認】

- Magic モニタで実行状況を確認します。

The screenshot displays the Magic Monitor web application interface. The browser address bar shows `http://localhost:8068/magicmonitor/panels.jsp`. The application title is 'Magicモニタ'. The top navigation bar includes 'Magic xpi', 'Magic xpa', 'データグリッド', and 'ログアウト'. Below this is a secondary navigation bar with tabs: 'ダッシュボード', 'メッセージ', 'フロー', 'トリガー', 'サーバ', 'アクティビティログ' (highlighted with a red box), 'ODS', 'BAM', 'ロッキング', 'サブスクリプション', 'スケジューラ', and '概要'. The main content area is divided into several sections. On the left, there's a sidebar with 'MagicxpiSample1' and 'ステータス: ALL'. Below this is a table with columns '開始', 'プロジェクトリスト', 'ステータス', and '警告'. The main area shows a '選択フィルタ' section with 'From: Tec' and 'To: FSID: 0'. Below this is a table with columns '日時', 'メッセージタイプ', 'メッセージ文字列', 'ステップ', 'FSID', and 'Blob'. The table contains several rows of log data. On the right, there's a '詳細' (Details) section with fields for '日時', 'BP名', 'フロー名', '名義', 'サーバ', 'メッセージタイプ', 'ルートFSID', 'フローリクエストID', 'FSID', and 'メッセージ'. At the bottom, there's a '立上時間' section with '0 Days and 0 hours' and buttons for '開始', '停止', and '再起動'. The status bar at the very bottom shows 'ステータス: RUNNING' and 'ライン: 1 - 6 of 6'.

日時	メッセージタイプ	メッセージ文字列	ステップ	FSID	Blob
2 26 2019 10 57 43 814	Flow completed	Execution Time: 00 00 00 465		1	
2 26 2019 10 57 43 804	Flow component completed	Execution Time: 00 00 00 402	CSVtoMSSQL	1	
2 26 2019 10 57 43 402	Flow component started	Linear	CSVtoMSSQL	1	
2 26 2019 10 57 43 349	Flow started				
2 26 2019 10 57 27 368	Trigger Started	Directory Scanner		0	
2 26 2019 10 57 26 101	Server started	- Instance number 2 ,The server was...		0	

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データの確認】

- DBテーブルにレコードが追加されたことを確認します。

Microsoft SQL Server Management Studio

SQLQuery6.sql - PS...OLTest (sa (59)) * SQLQuery5.sql - PS...IBOLTest (sa (56))

```
/****** SMMS からの SelectTopNRows コマンドのスクリプト *****/  
SELECT TOP 1000 [商品番号]  
    , [商品名]  
    , [販売価格]  
    , [在庫数量]  
    , [仕入先コード]  
    , [作成日]  
    , [作成時刻]  
    , [更新日]  
    , [更新時刻]  
FROM [iBOLTest].[dbo].[MSSQL商品マスター]
```

結果

商品番号	商品名	販売価格	在庫数量	仕入先コード	作成日	作成時刻	更新日	更新時刻
900001	商品名1	100.00000	10	100	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900002	商品名2	200.00000	20	200	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900003	商品名3	300.00000	30	300	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900004	商品名4	400.00000	40	400	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900005	商品名5	500.00000	50	500	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900006	商品名6	600.00000	60	600	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900007	商品名7	700.00000	70	700	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900008	商品名8	800.00000	80	800	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900009	商品名9	900.00000	90	900	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920
900010	商品名10	1000.00000	100	1000	2009-02-05 00:00:00.000	193741	2018-05-08 00:00:00.000	192920

クエリが正常に実行されました。

PS_HP_01MSQLEXPRESS (10.50... | sa (56) | iBOLTest | 00:00:00 | 10 行

11 行 45 列 39 文字 挿入

商品マスターテーブルにレコードが追加された

4.5 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト停止】

- プロジェクトを選択し、「停止」ボタンを押します。

【タイムアウト値の設定】
「OK」ボタンを押した瞬間、全てのトリガが停止し、プロジェクトは新しいリクエストを受け付けなくなりますが、すでに処理中のリクエストについては、タイムアウト値に達するまで処理が継続されます。
※通常はアクティビティログで処理が完了していることを確認してからプロジェクトを停止してください。
※即時停止したい場合は最低値「1」を指定します。